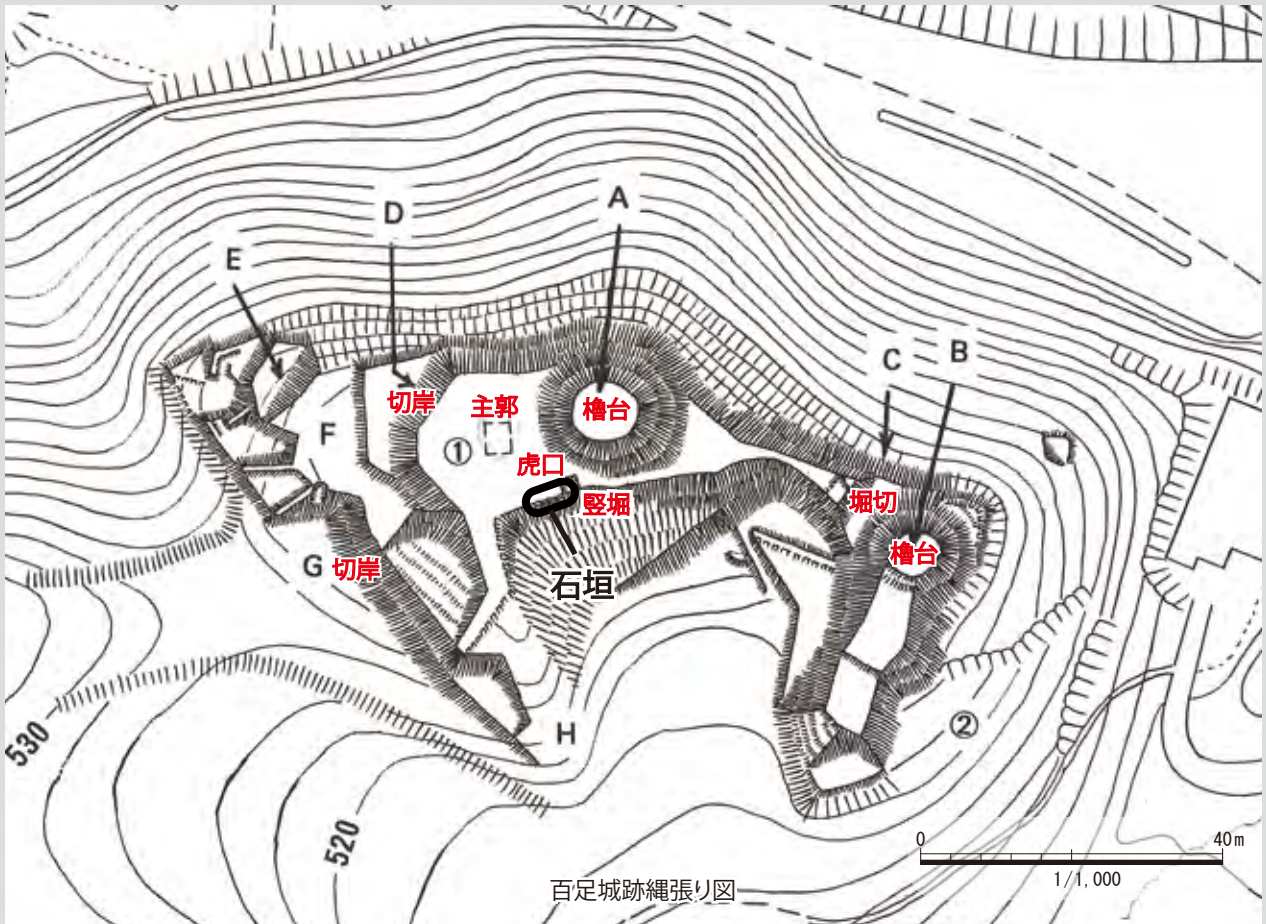


跡城百足 資料会説明会 現地資料



石垣発掘の様子(西から)



『岐阜県中世城館跡総合調査報告書第4集』(岐阜県教育委員会2005)より転載。佐伯哲也氏作図。

534m



石垣立面オルソ画像

百足城跡における試掘確認調査の概要

遺構：石垣、虎口、曲輪、塹堀など

知見：飛騨地方の山城は土造りが多いが今回は石垣を発見した。基底部に扁平な石材を配置し、その上にほぼ垂直に人頭大の石材を積んでいる。この技術は、15世紀後半～16世紀前半の石垣に共通する技術である。断面から裏込め土が認められず、山の斜面をカットした面に直接石を積み上げていることも古い様相と捉えることができる。これらの技術は、増島城跡などに見られる16世紀後半に金森氏が飛騨で用いた石垣構築技術とは異なる。古川城跡から約850mという立地からも、百足城跡は姉小路氏により築城され、その際に構築されたと想定できる。また、その後の三木氏による改修の可能性もあろう。いずれにしても、金森氏の入国以前に飛騨で石垣構築技術を有していたことを証明する貴重な遺構と言える。